

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第35週 (8/29-9/4) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		35週	34週	33週	32週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	17	18	15
	眼科	5	5	5	3
	インフルエンザ*	28	27	27	22
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/29-9/4	8/22-8/28	8/15-8/21	8/8-8/14	8/22-8/28
			35週	34週	33週	32週	34週
小児科	RSウイルス感染症	○	18 1.00	6 0.35	2 0.11	1 0.07	62 0.47
	咽頭結膜熱		0 0.00	1 0.06	2 0.11	2 0.13	19 0.15
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		29 1.61	21 1.24	23 1.28	19 1.27	206 1.57
	感染性胃腸炎		75 4.17	50 2.94	39 2.17	36 2.40	335 2.56
	水痘		3 0.17	6 0.35	2 0.11	4 0.27	43 0.33
	手足口病		27 1.50	18 1.06	21 1.17	25 1.67	129 0.98
	伝染性紅斑		3 0.17	2 0.12	4 0.22	5 0.33	13 0.10
	突発性発しん		11 0.61	13 0.76	16 0.89	13 0.87	68 0.52
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.04
	ヘルパンギーナ		53 2.94	28 1.65	55 3.06	51 3.40	215 1.64
	流行性耳下腺炎		5 0.28	4 0.24	3 0.17	7 0.47	67 0.51
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		6 1.20	2 0.40	0 0.00	3 1.00	27 0.77
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	腸管出血性大腸菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	男性	40歳代	IGRA検査				
結核	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出
結核	男性	70歳代	病原体等の検出等				
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	90歳代	病原体の検出	梅毒	女性	80歳代	血清抗体の検出

・第35週は、結核4件(174)、腸管出血性大腸菌感染症1件(12)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(5)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(25)、梅毒1件(19)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第35週のコメント

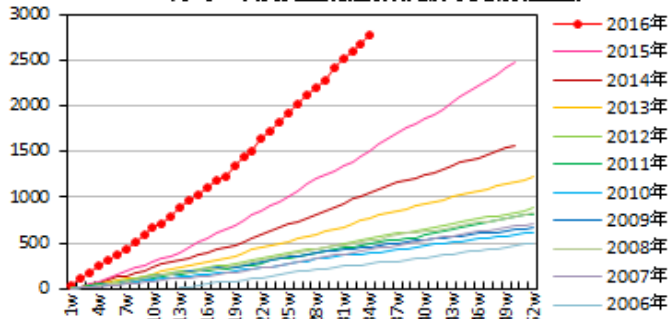
＜RSウイルス感染症＞前週から増加し1.0となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

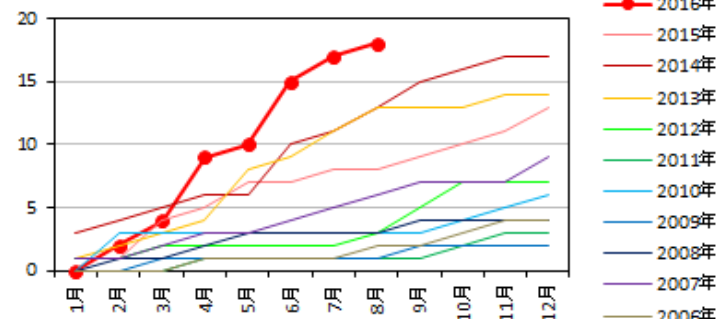
<梅毒>

全国レベルの第34週の累積届出数は2778件で、過去9年で最も多かった2015年を上回り最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県の順に多く報告されています。千葉県は全国第7位となっています。千葉市では第35週に1件の発生届があり累計が19件となり、過去10年で最多であった2014年を上回り最多となっています。性別では男性が44.4% (8名)、女性が55.6% (10名)と女性が多くっており、年齢階級別では20歳代 (31.6%:6名)、10歳代 (21.1%:4名)、80歳代 (15.8%:3名)の順に多くなっています。また、病型は早期顕症梅毒Ⅰ期 (26.3%:5名)、早期顕症梅毒Ⅱ期 (36.8%:7名)、晩期顕症梅毒 (5.3%:1名)、無症状病原体保有者 (31.6%:6名)で、感染経路は性的接触 (84.2%:16名)、輸血 (5.3%:1名)、不明 (10.5%:2名)で、性的接触の内訳は異性間 (62.5%:10名)、同性間 (6.3%:1名)、不明 (31.5%:5名)となっています。

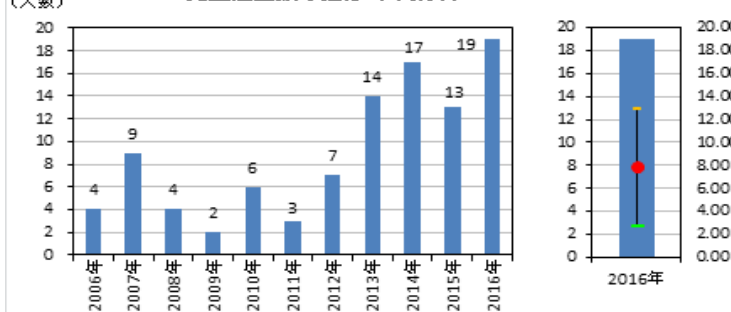
(人数) 梅毒:年別発生報告累積数の比較(全国)



(件数) 月別累積届出数の比較(2006年-2016年:千葉市)



(人数) 発生届出数の推移(千葉市)



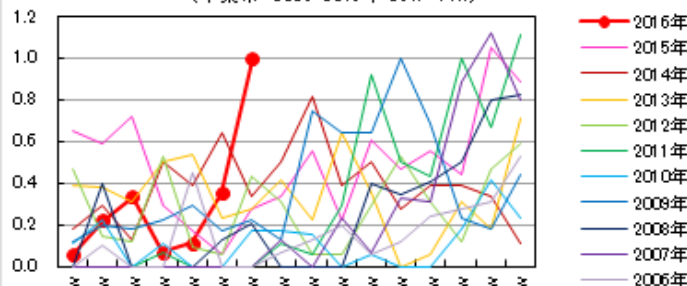
<RSウイルス感染症>

全国レベルの第34週は過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮崎県、新潟県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。

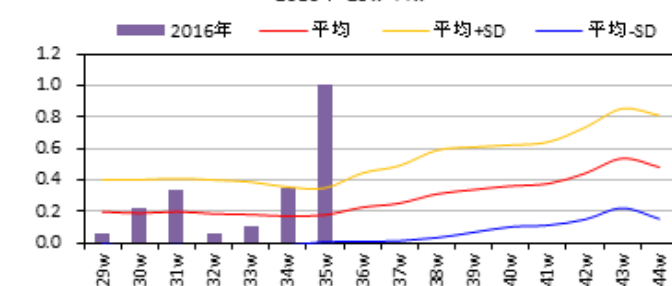
千葉市の第35週は前週より増加し1.00となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区 (3.0/定点)で最多となっており、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2015年第36週から2016年第35週までの累積報告数(n=259)によると、性別では男性が52.5% (136名)、女性が47.5% (123名)で、年齢階級別では1歳 (29.0%:75名)、6~11か月 (24.3%:63名)、2歳 (18.9%:49名)の順に多くなっています。

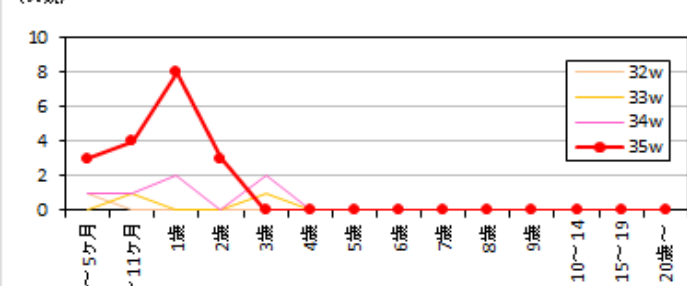
各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2006-2016年 29w-44w)



過去10年間との比較
2016年 29w-44w



(人数) 定点からの報告数の推移(直近4週分)



定点からの報告数
2015年36w-2016年35w n=259

